

vol. 11

スタッフのモチベーションを高める職場づくり

Nagai Farm Business Style Note

永井進の農場スタイル

永井 進

Nagai Susumu

1971年、長野県生まれ。長野(有)永井農場専務取締役。長野県東御市で酪農と稲作の複合経営に取り組みながら、従来の大規模化とは異なる農場発展の可能性を模索している。
<http://www.nagaifarm.co.jp/>

念

願の乳製品加工プロジェクトとして、いよいよ来年、軽井沢に永井農場直営のジェラートショップがオープンします。製造機の導入や人材採用など、今年から準備を進めています。なしる未経験の世界なので手探りの状態です。

まずは製造機のメーカーに出かけて基本講習を受けたり、実際にジェラートを作っているお店で研修させていただいたりして、ジェ

ラート作りのノウハウを学んでいきます。担当スタッフは、20代の女性2人。基本的なレシピはあるにしても、独自の味を出すためのアレンジが必要ですから、彼女たちは今、社員一同を巻き込んで試作と試食を繰り返しています。

また、接客マナーを身に付けるためには、実際にお客様の前に立つ経験も必要です。そこでこの冬には、永井農場の煎餅を製造していただいている東京の「富士見堂」

さんをお願いして、スタッフを預けようかと考えています。富士見堂さんの出店先であるエキナカ施設でOJT (On the Job Training) を受け、しっかり勉強してもらうためです。彼女たち自身の成長につながるのはもちろん、これからショップで働く人たちにも接客の仕方を伝えてもらいたいです。

こうした研修はジェラート部門に限ったことではありません。規模の大小はありますが、生産現場





写真左／「百姓」のロゴ入り半纏は、神田の老舗工房に依頼して制作。今年はTシャツも登場した。写真中／ジェラートプロジェクトの担当を務める新入社員の池田みずきさん。前職で3年間の酪農経験があり、牛乳の加工に関心があった。写真右／同じく今年の新入社員で、ジェラート担当の日下怜美さん。八ヶ岳の農業実践大学校で農業の魅力を知った。お菓子作りに興味があったという。

の視察は毎年行なっています。たとえば農場をヘルパーさんに任せ、社員みんなで北海道の酪農を見に行ったり、バスを借りて日帰りで新潟のワイナリーに行ったり。交代で長野県内の稲作経営者を訪ねることもあります。自分たちの農場を飛び出すことで、外部の人からいろんな情報もらえるので大変刺激になるんですよ。

それにこういう活動を重ねていくことで、スタッフのコミュニケーションが深まって一体感が強まりますし、仕事の目的が明確になることで、モチベーションが高まる効果もあると思います。日常の仕事でもコミュニケーションを欠かさないよう、昼休みにはみんなで管理棟に集まり、お茶を飲みながら仕事の段取りを話し合う時間が必要です。

さらに最近、気持ちよく仕事を始めるための一環として、オリジナルユニフォームの制作を始めた。昨年は東京神田にある江戸文字工芸の老舗「傘長」さんに半纏を作っていたのですが、今年はさらにTシャツも作ったんですよ。背中に大きく「百姓」とプリントされていて、スタッフにも好評です。全員に支給していますが、着替えがさらに必要

な人には購入してもらっています。冬用のパーカーも企画中ですし、ジェラートショップ専用のユニフォームも作る予定で、エプロンカッターをめぐりながらスタッフとデザインを選んでいくところです。こうした取り組みの一方で、今年から経営コンサルティング会社に依頼しての社員セミナーも始め



ました。インストラクターの方に永井農場までお越しいただく出張講習で、年に4回開く予定になっています。新入社員と入社3〜4年の中堅スタッフが対象で、内容は社会の基本的なマナーや、仕事に対するモチベーションをいかに高めていくかというものです。僕や社

長など、経営者側の人間がいるとやりにくいので、スタッフだけで受講していますが、ユーモアを交えた参加型の講習で面白いようですよ。みんなの反応を見ながらですが、最終的には何のために永井農場があり、どんなことを目指しているのかということまで導き出せたらいいと思っています。

ちなみにセミナーのテキストには、連載の第8回でも紹介した伊那食品工業の会長、塚越寛さんの著書を使っています。「いい会社を作りましょう」という本ですが、数字ばかりの事業拡大を戒め、会社の内面的な成長が大切であることを説いている内容です。こうした参考テキストからスタッフそれぞれが会社の目的を感じ、仕事のモチベーションを高められるよう、みんなに配布しています。いつか著者ご本人を永井農場にお呼びして、みんなで話を聞けるような機会を設けたいところです。

仕事を進めるうえで、トップダウンが必要なきもありませんが、一人ひとりが自ら湧き出るものがあって動けるようになるのが理想の職場です。各自が当事者意識を持ち、農場の目的に向かって行動できるよう、人づくりの環境を充実させていきたいですね。

(談)